

1 生物多様性とは？

生物多様性とは、生き物の「個性」と「つながり」です。地球上の生き物は、長い歴史の中でさまざまな環境に適応して進化し、3,000万種ともいわれるほど多様に存在しています。

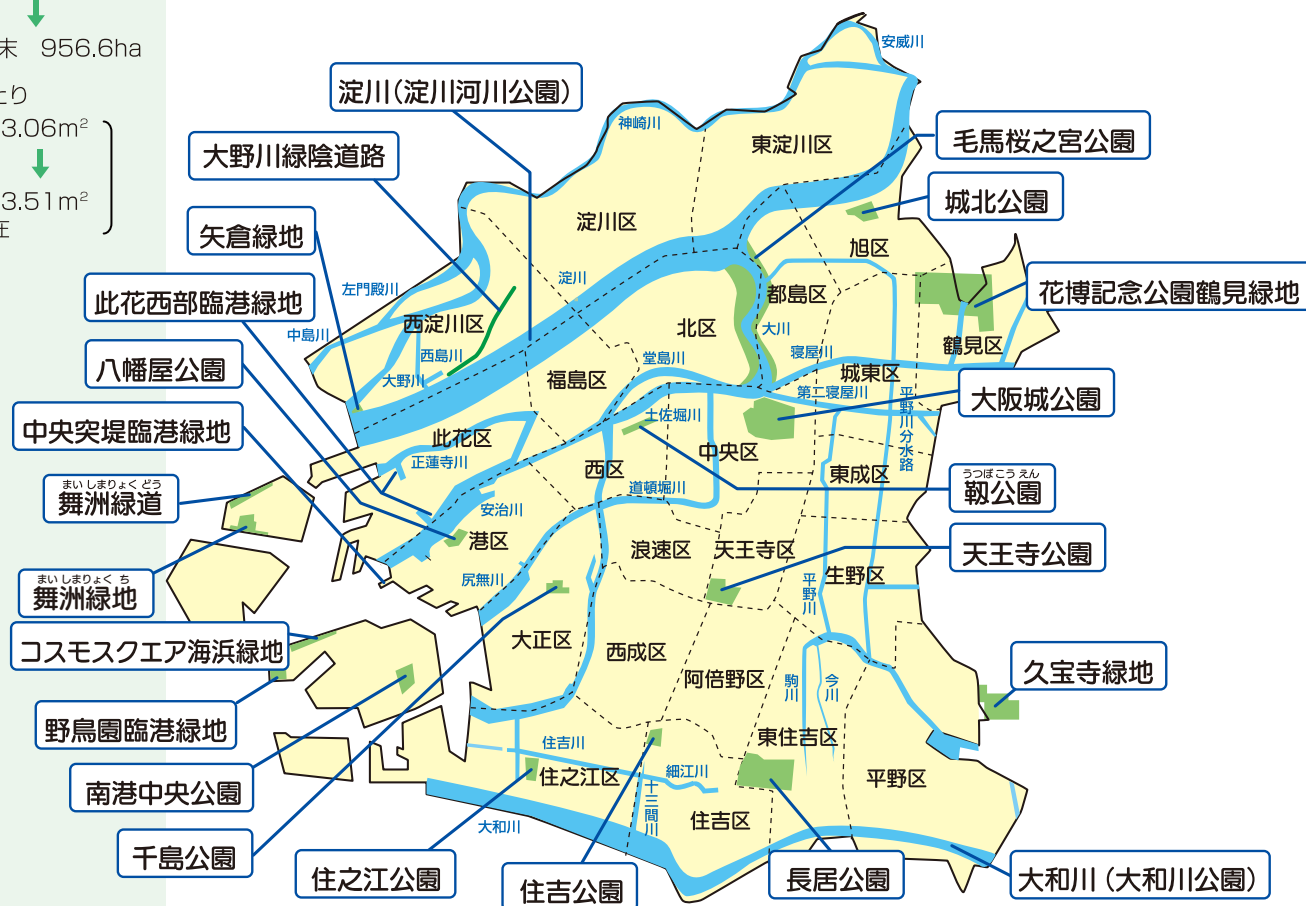
これらの生き物は、直接、間接的に支えあって生きています。

1 生態系の多様性

地球上には、森林、熱帯雨林、砂漠、河川、湖沼、干潟、湿原、サンゴ礁、深海などさまざまな自然環境が存在します。大都市である大阪市では、生態系の多様性を保つために、公園緑地や海辺・河川地域の整備、緑化に取り組んでいます。

身近なところにある「自然」を探してみましょう。

大阪市内の公園緑地・河川等



緑化の推進

大阪市内には、樹木が1,122万本(2016年度末現在)あります。

大阪市内にある公園面積
1993年 796.8ha

2018年度末 956.6ha

市民一人あたり
1993年 3.06m²
2019年 3.51m²
4月1日現在

2 種の多様性

大阪市内にいる生き物（外来生物の種数を含む）

ほ乳類13種／鳥類319種／は虫類9種／両生類4種

汽水・淡水魚類120種／植物1,476種／昆虫類1,756種

※ちなみに日本の野生生物は

ほ乳類約160種／鳥類約700種／は虫類98種／両生類66種

汽水・淡水魚類約400種／植物約7,000種／昆虫類約32,000種

大阪には、どのくらいの種類の生物が生息しているのでしょうか。魚類に注目してみましょう。

大阪市内の河川の海に近い部分は、海水と淡水の混じる汽水域となっています。大阪市では、1991年度から定期的に市内河川魚類生息状況調査を実施しています。2017年度の調査では、コイ、オイカワなどの純淡水魚が22種、アユなどの川と海を行き来する回遊魚が10種、ボラ、スズキなど汽水・海水魚が20種の計52種が確認され、これまでの調査の中で最多の確認種数となっています。

大阪市では、きれいな水質でないと生息できない種として、淡水域ではハス、コウライモロコ、カワヒガイ、シロヒレタビラを、汽水域ではコチ属、ヒメハゼ、クロダイ、イシガレイの計8種を「きれいな水質の指標種」に指定しています。

2017年度の調査における「きれいな水質の指標種」の確認地点数は、道頓堀川など10地点(全19地点中)で、良好な水環境が維持されています。

きれいな水質の指標種

淡水魚



ハス



コウライモロコ



カワヒガイ



シロヒレタビラ

汽水魚



コチ属(コチのなかま)



ヒメハゼ



クロダイ



イシガレイ

淡水魚

河川や湖にすむ魚。

汽水魚

汽水湖や河川の河口など淡水と海水がまざっているところにすむ魚。

- 大阪市内の川にすむ魚
(市内河川魚類生息状況調査)

ホームページ

<https://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/page/0000445402.html>



近年、大阪市内の河川の水質が大幅に改善していることは、確認種数や「きれいな水質の指標種」の確認地点数の増加となって表れています。しかし、水質改善だけで多様な生物が生息できるわけではありません。淀川・大和川・神崎川上流では、多くの種の魚類の繁殖や、エサ場となる浅瀬、隠れ家となる水草、石のすき間があるなど、生物にとって住みやすい環境にあるため、確認種数が多くなっていますが、道頓堀川のような垂直護岸の河川では、水質改善は進んでいるものの確認種数は比較的少ない状況です。

市街地の河川に生息する生物



ボラ



アオサギ



クロベンケイガニ



ヒメタニシ

ワンド

明治初期から昭和初期にかけて、大阪と京都を結ぶ航路として淀川の改修工事がなされたときに造られた水制(川に突き出した石組み)がもとになってできた河川敷の池のことです。本流には見られない多様な環境が見られ、多様な種の魚類や貝類、水辺の植物を見ることができます。

淀川のワンドには国の天然記念物のイタセンパラが生息していますが、近年は絶滅が危惧されています。また、在来種に悪影響を与えるオオクチバス、ブルーギルなどの肉食性の外来種が多く確認されています。

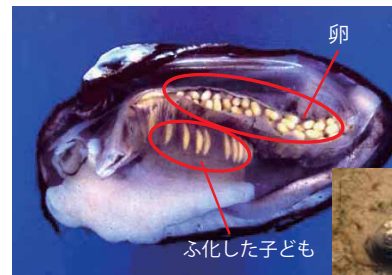
イタセンパラは2006年以降生息が確認できなくなりましたが、外来種駆除などの取組みにより、2013年の秋に生息地であった城北ワンドに成魚が放流されました。翌春には繁殖が確認され、その後2019年の春も順調に繁殖が確認され、生息地が広がりつつあることもわかってきました。



城北ワンドに放流されたイタセンパラ



城北ワンド (旭区)



二枚貝の中で生きているイタセンパラの卵と子ども



イシガイ

③ 遺伝子の多様性

同じ種でも異なる遺伝子を持つことにより、形や模様、生態などに多様な個性があり、環境の変化や病気が広がっても絶滅する可能性が低くなります。



アサリ



ナミテントウ

2 生物多様性から受けるめぐみ

人間は地球に生きる3,000万種ともいわれる生物の一つの種であり、人間を含むすべての生物は、他の多くの生物と大気・水・土などで構成される環境の中で相互に関わり合って生きています。

人間の生存基盤		
安全な生活 ・災害抑制 ・水源確保 ・病害虫抑制	有用な価値 ・食料 ・工業材料 ・医薬品 ・レクリエーション	豊かな文化 ・音楽 ・絵画 ・短歌、俳句

(出典：環境省「いのちがつながっている」)

もし、この地球から森や小鳥、魚や昆虫などが消えてしまい、人間だけが残ったと想像してみたらどうでしょう。立派なビルやインターネットなどのITシステムが残っていても、人間は生きていけません。生物多様性は、人間が生存するのに欠かせない土台なのです。

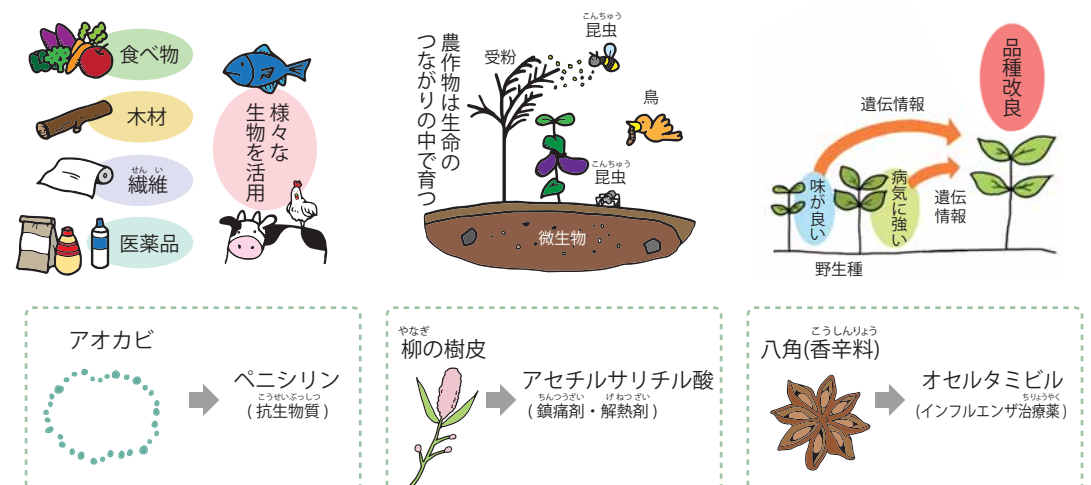
①『いのち』を支える生物多様性

植物が酸素をつくったり、森林や湿原が水を蓄えたりするなど、生命が成り立つ土台である大気や水は、多くの生き物の営みによって支えられています。



②『くらし』を支える生物多様性

食べ物はもちろん、木材や医薬品なども生物多様性(種の多様性や遺伝子の多様性)がもたらすめぐみで支えられています。



生物多様性のめぐみ

2015年にノーベル生理・医学賞を受賞された大村智さんは、熱帯の寄生虫による恐ろしい風土病から2億人もの人を救いました。その病気の治療薬は土の中から発見されたある種の微生物(細菌)をもとに開発されました。まさに生物多様性からのめぐみだったのです。

● やってみよう!!

将来にわたり、生物多様性のめくみを受け続けられるように、今日からできることは何か、考えてみましょう。

たとえば、

たべよう

地元でとれたものを食べ、季節の旬のものを味わう。

ふれよう

自然の中へ出かけ、自然や生き物にふれる。

つたえよう

自然の素晴らしさを感じて、写真や絵、文章で伝える。

まもろう

自然とのつながりを守るため、地域の活動に参加する。

えらぼう

エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで買う。

こんなことも実は、生物多様性を守ることに繋がっています。自分の身近なことからできることを探して、取り組んでみましょう。



環境省「MY行動宣言」

③ 「文化」を支える生物多様性

豊かな文化の根源

各地域には、地域固有の生物多様性と深く関連したさまざまな知識や技術、豊かな感性や美意識が培われています。たとえば、漬け物、味噌、しょうゆ、日本酒など、地域の微生物と食材が織りなす地域固有の食文化があります。

安全・安心の基礎

森林を守ることは山地災害の防止や土壌の流出防止、安全な飲み水の確保につながります。また、農薬や化学肥料を使いすぎないことは、食べ物の安全性を高めるばかりでなく、生態系の健全性を高めることを通じて、土壌微生物の活動を活発にし、害虫防除の機能を発揮します。

④ 「おおさかの文化・歴史」と生物多様性のつながり

大阪の経済的、文化的な豊かさは、大阪、関西、日本、世界の生き物のめぐみに支えられながら育まれてきました。それは今も変わりません。

なんで「なにわ」なん? ～大阪の自然を今に伝える～

古くは市域のほとんどが海の底にあった大阪市。半島に突き出した上町台地の北端に難波宮が建設され、政治拠点となりました。その付近の潮の速さから「浪速（なみはや）」と呼ばれ、それが訛って「難波（なにわ）」と呼ばれたという説。豊かな海の恵みを生み出す大阪湾を、「魚（な）の庭」と呼んだという説など。諸説ありますが、どの説も水と縁の深い大阪の自然を今に伝えています。

なにわは食の発信地 ～諸国の生き物の賑わいに支えられた商業都市～

大阪と言えば「食い倒れ」。江戸時代、大阪は水上交通の要所であり、諸国の食材や特産物が集まる「天下の台所」として日本一の商業都市に発展しました。一堂に集まる全国の新鮮な食材、いわば生き物たちの賑わいが、「合わせだし」などを生み出しました。

なにわにもあるんやで、伝統野菜 ～発展するまちを支えた野菜たち～

淀川や大和川が運ぶ土砂の堆積により、野菜の生産に適した土地が形成された大阪市。そこでは、毛馬胡瓜や天王寺蕪、田辺大根、難波葱など、様々な伝統野菜が生産され、発展する大阪のまちの消費を支えてきました。現在も「なにわの伝統野菜」のブランドで、その伝統が継承されています。

なにわの海の幸 ～今も息づく淀川の魚たち～

海と川がまじわる豊かな漁場である淀川河口では、多様な漁業が行われてきました。鋤簾によるシジミ漁をはじめ船曳網によるシラス漁、さらには伝統漁法であるタンポ（筒）によるウナギ漁などが現在も営まれています。

文楽もそうなん!? ～クジラのヒゲを支える伝統芸能～

大阪が誇る伝統芸能「文楽」。セミクジラのヒゲを使った仕掛けが、文楽人形の芸術的な動きを可能にしています。生き物の恵みが、世界に誇る無形文化遺産を支えているのです。

大阪は「東洋のマンチェスター」や! ～世界の綿花を支えられた工業都市～

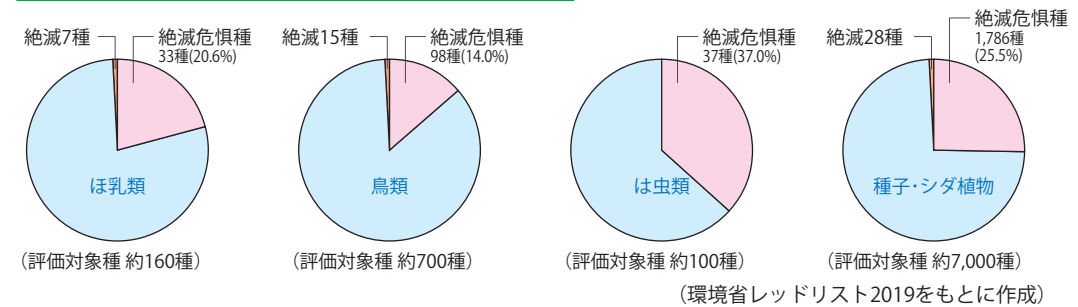
明治時代には、数多くの紡績、繊維会社ができ、大阪は「東洋のマンチェスター」と呼ばれるにふさわしい発展をとげました。この頃、紡績の原料として使われる綿花の多くは、国外から輸入されたものでした。グローバル社会の幕が開け、大阪は国内だけでなく、世界の生き物の恵みである綿花に支えられ、工業都市としてめざましく発展していったのです。

3 今、生物多様性の危機

生物多様性の危機が世界的な問題となっています。日本でも多くの動植物が絶滅の危機にさらされています。その原因は開発によりすみかを追われる、過度の捕獲や採取で絶滅に追いやられる、外来生物や有毒な化学物質、地球温暖化の影響を受けるといったことがあげられます。大阪府でも多くの動植物が絶滅の危機にさらされています。

① 絶滅危惧種の状況

絶滅の危機にさらされる日本の野生動植物



大阪府ではどうなっているのでしょうか

絶滅の危機にさらされる大阪の野生動植物

分類群	絶滅 ※1	絶滅危惧Ⅰ類 ※2	絶滅危惧Ⅱ類 ※3	準絶滅危惧 ※4	大阪府野生生物目録掲載種類数 ※5
動物					
ほ乳類	0	4	4	5	33
鳥類	0	7	26	47	365
は虫類	0	2	1	4	20
両生類	0	2	6	4	18
汽水・淡水魚類	0	19	10	9	130
昆虫類	22	54	86	188	5,567
植物					
維管束植物	86	162	85	92	2,436
コケ植物	3	44	47	40	
その他	0	5	22	24	

(大阪府 レッドリスト2014をもとに作成)

- ※1 絶滅…大阪府ではすでに絶滅したと考えられる種
- ※2 絶滅危惧Ⅰ類…絶滅の危惧に瀕している種
- ※3 絶滅危惧Ⅱ類…絶滅の危険が増大している種
- ※4 準絶滅危惧…現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」になる可能性のあるもの
- ※5 大阪府野生生物目録掲載種類数…外来生物の種類を含む

大阪府レッドリスト2014

大阪府内に生息・生育する野生動植物の現状を共有し、豊かな自然環境の保全や野生動植物保護の資料とするため作成されています。



カヤネズミ
(出典：大阪市立自然史博物館展示標本)



カヤネズミの巣

体の大きさが6～7cmの世界最小クラスのネズミ。多くの種のネズミは土に穴を掘って巣を作りますが、カヤネズミはオギやススキなどの葉を切り裂いて編みこんで地上から平均1mの高さに球状の巣を作ります。大阪府で保護上重要な種に指定されています。

外来生物法

海外からやってきた外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがある生物を「特定外来生物」に指定し、輸入や運搬、飼育・栽培、販売などを規制する法律です。また、これらの生物を野外に放つたり植えたりすることも厳しく禁じられています。違反した場合は処罰されます。

正式名称は「特定外来生物による生態系等にかかる被害の防止に関する法律」といいます。2018年4月1日現在で、148種が指定されています。

分 類		種類
脊椎動物	ほ乳類	25
	鳥 類	7
	は虫類	21
	両生類	15
無脊椎動物	魚 類	26
	クモ・サソリ類	7
	甲殻類	5
	昆虫類	21
植物	軟体動物	5
		16



クビアカツヤカミキリ



アライグマ



セアカゴケグモ

大阪でもこれらの生物が見つかっています。生態系や人体に悪影響を及ぼす可能性があります。

外来生物の影響は

①ブラックバスの脅威

地域の生態系は、長い年月をかけて微妙なバランスのもとで成り立っている。そこへ外国や国内の他の地域から動植物が持ち込まれると、その中には繁殖して地域の生態系に悪影響を及ぼすものも出ている。日本古来の種が絶滅の危機に面しているほか、人間にまで影響が及ぶ可能性がある。このため、環境省は外来生物法を2005年6月に施行、「入れない」「捨てない」「拡げない」ことを呼びかけている。

特に注目を集めているのが、北アメリカ原産の淡水魚オオクチバス(ブラックバスの一種)だ。1925年に神奈川県芦ノ湖に放流されたのが最初。ルアー釣り愛好者に好まれ、各地の湖沼に放流された。

食欲が旺盛で、滋賀県の琵琶湖ではオオクチバスが増えるにつれ前からいた魚がすっかりいなくなった。固有種のホンモロコや、「ふなずし」の材料となるニゴロブナ（ぎょかくだか）の漁獲高はかつての10分の1以下に激減した。今では網にかかるのは、オオクチバスやブルーギルといった外来魚が大半だ。

※固有種

その国や地域で進化して新しい種となった生き物のこと。分布がその国や特定の地域に限定されます。

②ペットが逃げ出し野生化

外来生物は人が持ち込んだり、荷物に混ざって入るほか、ペットとして輸入された野生生物が逃げだして野生化するケースも目立つ。北アメリカ原産のアライグマなどが農作物を荒らしている。また北中米原産のカミツキガメは千葉県の印旛沼周辺などで目撃されており、人に危害を加える恐れもある。最近輸入が激増している外国産のカブトムシやクワガタも、野生化して在来種のすみかを奪ったり、在来種と雑種をつくって純粋な日本産クワガタが減ってしまうと心配されている。

(出典：環境省「いのちがつながっている」)

大阪（淀川）で確認された特定外来生物の例



ブルーギル



アレチウリ



ナガエツルノゲイトウ



ウシガエル



カダヤシ

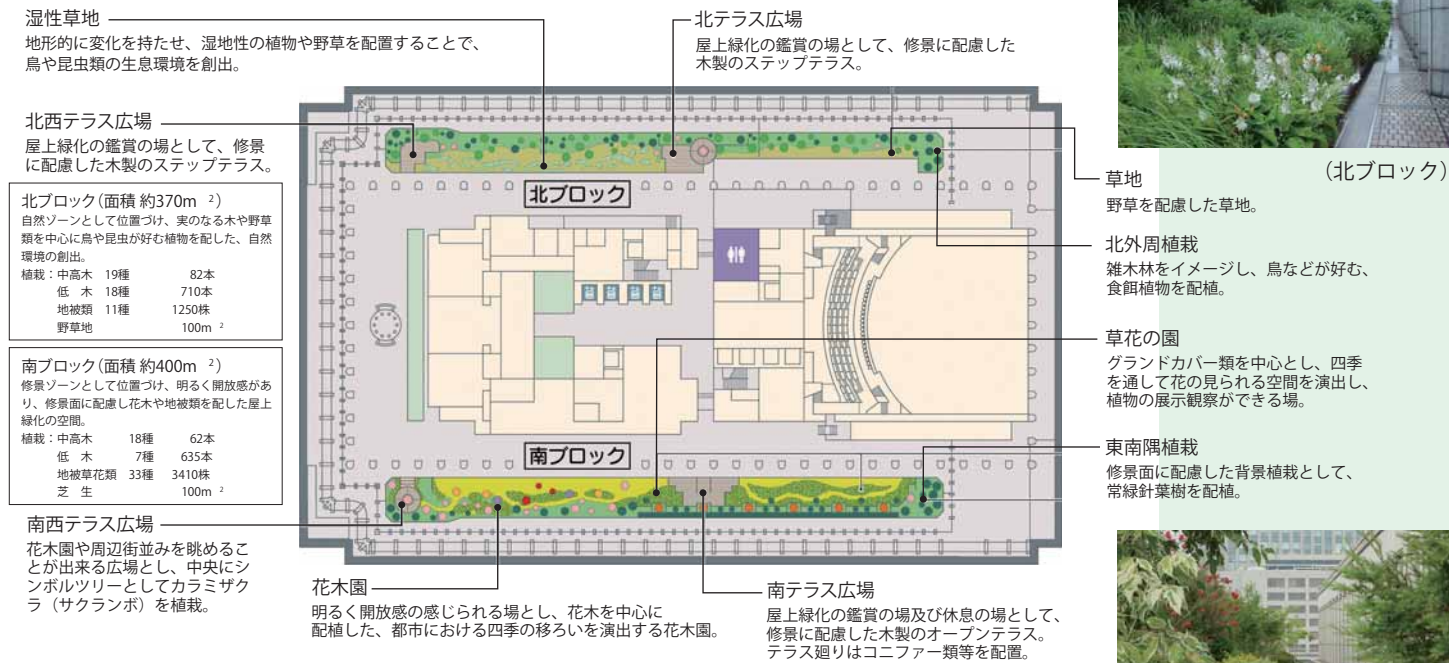


ヌートリア

市街地と生物多様性

大阪市役所の屋上緑化

都市における良好な自然環境の創出のため、市街地における緑化の推進が求められており、その手法の一つとして建築物の屋上に芝や草木を植える、屋上緑化が注目されています。大阪市役所の屋上では、自然や緑、花にふれあい、都市における緑化を実感できる空間をめざして整備しています。



屋上緑化の効果

屋上緑化の効果には、「身近な環境を改善する効果」と「都市全体の環境の改善に寄与する効果」があります。1つの建物の屋上を緑化するだけでも「身近な環境を改善する効果」が得られますが、都市内で屋上緑化が増えると、全体として、「都市全体の環境の改善に寄与する効果」が発揮されます。

身近な環境を改善する効果

- ・最上階の気温上昇の抑制効果
- ・くつろぎと安らぎの場の創出効果
- ・生物相の多様性を生み出す効果
- ・建築物の劣化防止効果
- ・防塵効果

都市全体の環境の改善に寄与する効果

- ・ヒートアイランド現象の軽減効果
- ・雨水の流出抑制効果
- ・大気汚染の緩和効果
- ・都市の景観向上効果

○大阪市役所の屋上で確認された鳥類・昆虫類等

(調査協力：地球館パートナーシップクラブ(2004～2011年度))

- (1)鳥類 イソヒヨドリ、メジロ、ハクセキレイ、モズなど15種類
- (2)昆虫类等 モンシロチョウ、ニホンミツバチ、トノサマバッタなど326種類
- (3)その他 都市部ではめずらしいホタルブクロやヤブヘビイチゴなどの野草



(北ブロック)



(南ブロック)

修景

自然の美しさを損なわないように風景を整備すること。



イソヒヨドリ(メス)



ニホンミツバチ

里山

新や山菜の採取などに利用される、生活に結びついた集落周辺の山などのこと。

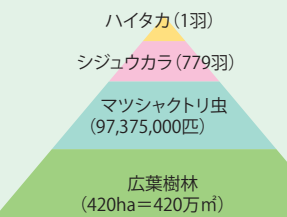
人の手が入ることで生態系のつり合いがとれ、多様な生物が生息していました。

小話：

ハイタカ1羽が生息するために必要な環境



ハイタカ



(出典：日本鳥類保護連盟の試算)

食物連鎖上、ハイタカ1羽でシジュウカラが779羽、マツシャクトリムシが97,375,000匹、広葉樹林(420ha)などが生息の環境として必要と言われています。

新・里山

大阪梅田にある「新梅田シティ」の北側8,000m²の敷地に、かつて日本の集落の周りで見られた里山を手本とした「新・里山」があります。

草花や雑木林、竹林、棚田、野菜畑、茶畑などが配され、本来その地域に生息する生き物たちがたくさんもどってきています。田畑の野菜作りや雑木林の管理など、地元の方や子どもたちによるボランティア活動も行われています。



この地域の気候・風土にあう「昔からあった樹木」を中心に植栽することで、野鳥などが生息しやすい環境をつくっています。また、樹木だけでなく、水辺を作ることで、さまざまな生き物が生息できるようにしています。トンボやカエルなども見かけることができます。



オオルリ



ジョウビタキ



メジロ



アサギマダラ



ジャコウアゲハ



ヤマトシジミ



ツワブキ



ホタルブクロ



クサイチゴ



ヤハズエンドウ

③ 大阪市での取り組み

大阪市では、2018年3月に「大阪市生物多様性戦略」を策定し、緑地や水辺空間の保全とともに、生物多様性の観点から、市域に残された自然と学校、公園などの緑と河川などの水辺空間のネットワークづくりを進め、多様な生き物が息づく豊かな都市環境づくりに取り組んでいます。

大阪市役所の取り組み

世界的に生物多様性の危機がさけられるなか、大阪市でも生物多様性を守るための取り組みを進めており、花博記念公園鶴見緑地内にある自然体験観察園や淀川などで自然体験イベントを開催しています。

また、大阪市の様々な普及啓発や研究の拠点では、自然に関するさまざまな情報発信や研究などが進められています。



「生物観察会」の様子



「お米づくり連続講座」の様子



「楽しい水辺教室」の様子
(地曳網体験)

大阪市内の学校の取り組み

大阪市内の小中学校では、自然環境を守ることの大切さについて理解を深め、自分から進んで自然環境の保全に取り組むようになるために、ビオトープが整備されています。



摂陽中学校 (平野区)



東田辺小学校 (東住吉区)

市民・企業・NPO等の取り組み

大阪市内の企業では、自社敷地内の緑化やビオトープの整備、原料調達にあたっての配慮など、先進的な取り組みが進められています。

大阪市内には、自然をテーマとして活動するNPO等が数多くあり、これらの団体では、身近な場所での自然観察会や環境に関する講座など、市民参加によるさまざまな取り組みが進められています。

今後、市民・企業・NPO等がさらに連携しながら、それぞれの持つ力をいかしていく必要があります。

大阪市生物多様性戦略

2018年から2020年までの3年間の計画。

「生物多様性の恵みを感じるまち」の実現に向けて取り組みを進めています。



小話：

エコロジカルネットワーク

公園などの緑と河川などの水辺空間の生態系のネットワークや、野生生物が生息・生育する様々な空間（森林、農地、都市内緑地・水辺、河川、海、湿地・湿原・干潟・藻場・サンゴ礁等）がつながる生態系のネットワークのことをエコロジカルネットワークといいます。生態系ネットワークと呼ばれることもあります。

ビオトープ

ドイツ語のbio(生命)とtop(場所)の合成語で、多様な野生生物が生息する環境のことです。

原料調達にあたっての配慮

違法に伐採された木材を使用しない、間伐材を積極的に使用するなど、生態系を保全し、持続可能な調達に取り組んでいます。

4 生物多様性条約

① 「生物多様性条約」とは？

生物多様性を包括的に保全するとともに、生物という資源を持続的に利用していくために国際的な枠組みが必要とされ、1992年に開催された国連環境開発会議（リオ地球サミット）で「生物多様性条約」が採択されました。1993年より発効しています。

以前は、発展途上国に生息し、地元の人々が伝統的に守り、利用していた生物が、先進国の技術で研究されることで新薬が発明につながったとしても、発展途上国や地元の人々に利益を還元する国際的なルールはありませんでした。

そのため、生物多様性条約では生物の不正利用を規制し、利用手順をルール化し、世界的に生物多様性による利益を配分することを目的の一つとしています。

条約の目的	①生物多様性の保全 ②生物多様性の構成要素の持続可能な利用 ③遺伝資源の利用から生じる利益の公正で衡平な配分
締約国数	194の国、欧州連合（EU）及びパレスチナ（2017年12月現在）

生物多様性条約締約国会議

生物多様性条約の締約国会議（COP）は、おおむね2年に1回開催されています。

2010年10月には愛知県名古屋市で第10回(COP10)会議が開かれ、生物多様性戦略計画2011－2020（愛知目標）や名古屋議定書が採択されました。

【生物多様性戦略計画 2011－2020（愛知目標）】

短期目標（2020年）

生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する。

長期目標（2050年）

「自然と共生する」世界

名古屋議定書は生物（遺伝）資源の取得の機会と利益配分に関するルールの、透明性・明確性の確保について定めています。

日本では、2017年5月に日本のルールとしてABS指針をまとめ、名古屋議定書を締結し、8月から発効しています。

たこ焼きも「生物多様性のめぐみ」

わたしたちのくらしや企業活動で生産・消費される資源の多くは国内外の「生物多様性のめぐみ」です。

また、わたしたちが利用する多くの商品は、世界各地での資源の採取、運搬、生産、流通などの過程をとおして、わたしたちの手元にたどりつきます。そして、その過程で国内外の生物多様性にさまざまな影響をおよぼします。

例えば、大阪名物のたこ焼きは、具材、生地、調味料にいたるまでのさまざまな動植物を利用しています。タコやカツオ、ニワトリのえさまで含めるとさらに多くなります。

世界の生物多様性なくして、おいしいたこ焼きを食べることはできません。

例えば…大阪名物「たこ焼き」

生地

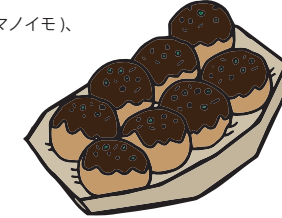
小麦粉（①コムギ）、鶏卵（②ニワトリ）、山芋（③ヤマノイモ）、
④カツオや昆布（⑤コンブ）のだしなど

具材

⑥タコ、⑦ネギ、天かす（⑧アブラヤシ等）、
紅ショウガ（⑨ショウガ、⑩ウメ等）など

調味料

カツオブシ（カツオ、⑪カビ）、青ノリ（⑫アオサ）、
ソース（⑬トマト、⑭リンゴ、⑮ニンジン、⑯タマネギ、⑰サトウキビ、
⑱トウモロコシ等）、マヨネーズ（ニワトリ、醸造酢等）など



ここまで25種!!

醸造酢

⑲イネ、⑳酵母、㉑酢酸菌など

醤油

㉒ダイズ、コムギ、㉓麹菌、
㉔乳酸菌、酵母など

ソースの香辛料

㉕コショウなど

※記載している材料は、想定されるものです。
（大阪府立大学教授 石井実 作成資料より）

さまざまな生き物が生息する湿地(ウェットランド)

湿地(ウェットランド)とは川や湖、浅い海、干潟や湿原、水田まで含めた“水辺の自然”です。水辺は、生き物が生きていくうえで欠かすことのできない自然環境です。

「干潟」は、潮の干満の影響を受ける厳しい環境ですが、意外にも多くの生き物の生息が見られます。

大阪湾岸は99.9%以上が人工護岸で、自然干潟はごくわずかです。野鳥園臨港緑地では、海水が出入りする導水管を設置し、干潮時に干潟や磯があらわれる池を人工的に造成しています。池の周囲にはヨシを主とした塩生湿地が広がっていて、さまざまな種類の生き物が生息し、多くの野鳥が集まってきます。

湿地の生きもの

干潟には、さまざまな生きものが生息しています。

- ・水中の生きものは次のタイプに分けられます。
 - ・プランクトン(浮遊生物)…クラゲ、プランクトンなど
 - ・ネクトン(遊泳生物)…魚類など
 - ・ベントス(底生生物) 海藻、貝、ゴカイ、カニなど
- ・塩生植物

- ・潮の干満、海風の影響を受ける厳しい環境ですが、ヨシ、ハマヒルガオ、ウスベニツメクサ、イソヤマテンツキの群落があります。
- ・海浜性昆虫
- ・潮間帯の転石の下にも昆虫類(甲虫類など)が生息しています。
- ・珪藻類、鞭藻類 水中や干潟の表面に、多く生息しています。

・ヨコエビ類
トンガリドロクダムシ ニホンドロソコエビ

ヨコエビ類
大きさは0.5～1mmほどです。
干潟に多量に生息しています。
野鳥がよく食べています。

ヨツモンコミスギワゴミシ
イソガニ フナムシ

ヒライソガニ

アカニシ

トンガリドロクダムシ

ユスリカ類の幼虫

アサリ

ゴカイ類

オオノガイ

有機物堆積層
デトリタスが大量に堆積しています。

・デトリタス(粒状有機物)
死んだ動植物やふんなどが細かく分解したものです。
その周りには、バクテリアや原生動物が集まっています。



野鳥園臨港緑地（住之江区）



西中島（淀川区）のヨシ群落



ヨシ（アシ）秋



湿地のようす

ていやく
締約国会議(COP)

条約の加盟国が物事を決定するための最高意思決定機関として設置されています。

生物多様性戦略計画
2011-2020（愛知目標）

2050年までに「自然と共生する」世界を実現する長期目標を掲げ、2020年までに短期目標と20の個別目標の達成をめざすものです。



生物多様性国家戦略
2012-2020

日本では1995年以降、生物多様性条約に基づく国家戦略を策定しています。

本戦略はCOP10の結果や東日本大震災の経験などを踏まえ、愛知目標の達成に向けた具体的な戦略として策定されました。

名古屋議定書

正式名称は「遺伝資源の取得の機会及びその利用から生ずる利益の公正かつ衡平な配分に関する名古屋議定書」。機会＝Access、利益＝Benefit、配分＝Sharingの頭文字を取って、ABS名古屋議定書とも言われています。